

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成29年度第2回)

日時：平成29年8月21日（月）午後3時～4時15分
場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

○司会（障がい福祉課 竹ノ内）

それでは定刻になりましたので、ただいまから「手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議」の平成29年度第2回目の会議を開催します。本日はお忙しいところ、本会議にご出席くださりありがとうございます。私は、本日の進行を進めます鳥取県障がい福祉課の竹ノ内と申します。どうぞよろしく申し上げます。それでは、まず開会に当たりまして、本会議の委員長であります鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局長の宮本から、皆様にごあいさつ申しあげます。

2 委員長あいさつ

○宮本委員長（ささえあい福祉局長）

皆さん、本日はお忙しいところ、また大変お暑いところ、ご出席いただきましてありがとうございます。皆が楽しみにしている手話パフォーマンス甲子園の第4回目に大会に向けて、いよいよ手続きが進行し始めました。先日、本大会に出場する20校の選出が滞りなく完了したところであります。これで役者は揃ったわけでありまして、あとは私たちによる企画運営に係っているわけでありまして、大変暑い折ではありますが、これから皆さん、また熱いご議論をいただきたいと思っております。前回この会議では、大変多くのご意見あるいはご質問をいただきました。第4回目なのに、ご意見をいただいたのか、第4回目だからいろいろ見えてくるところがあって、ご意見をいただけたのか、いずれにしろ皆さんからたくさんご意見をいただいて、調整を重ねていくことで、おそらくは理想のかたちに近づいていくのかなあと思っています。本日も前回と同じように、ご議論をいただきたいと思っております。10月1日の本番に向けて、今回が皆さんと対面で一同に介して議論できる最後のチャンスということになりますので、ぜひ、ご意見お気づきの点があればご指摘いただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

○司会（障がい福祉課 竹ノ内）

次に、委員の皆さまのご紹介ですが、本来でしたら本日ご出席いただいております皆様全員をご紹介させていただくところではありますけれども、時間の都合もありますので、まことに恐縮ではございますが、お手元の出席者名簿をもって、ご紹介にかえさせていただきます。なお、本日、佐伯委員さんにおかれましては用務によりご欠席となっております。また本日は、県外より筑波技術大学の教授でいらっしゃいます大杉委員様、日本ろうあ連盟で青年部長を務めておられます廣田委員様にお越しいただきました。遠方よりお越しくださりありがとうございます。また、大会運営のパートナーでありますM&M.coさんに今回も会議のオブザーバーとして参加していただいております。よろしくお願いたします。

これより、議事に進みたいと思いますが、その前にご発言される際にお願いがございます。ご発言いただく際にはまず手を挙げて、お名前を述べていただいた後、ゆっくりお話しくださいますようお願いいたします。それでは、これより議事に入らせていただきます。これから先は、実行委員会実施運営要綱に基づき、宮本委員長に議長をお願いいたします。それでは宮本委員長、議事の進行をお願いいたします。

3 報告事項

○宮本委員長

それでは、次第に従って運営を進めていきましょう。報告事項から入ります。資料の1ですね。では、事務局から説明をお願いします。

(1) 第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園予選審査結果について(資料1)

○明場(実行委員会事務局長)

資料1をご覧ください。第4回手話パフォーマンス甲子園本大会出場チーム一覧です。予選審査会につきまして、簡単にご説明しておきますと、8月2日に県庁の特別会議室のほうで開催しました。3日に結果を発表したというところでございます。審査員は、庄崎審査員長をはじめ、ろう者が2名、聞こえる人が2名、計4名で行ったというところでございます。各チームから提出を受けた3分以内の動画をもとにして審査を行い、54チームから20チームに絞ったというところでございます。その結果が資料1のほうの20チームという状況でございます。選出方法につきましては、一番上に地方ブロックが掲げられてございます。これは、全国を北海道とか関東とかの六つの地方ブロックに分けて、それぞれのブロックごとに上位2チームをまず選出して、12チームを決めます。そしてそのチームを除いたところで、今度は点が上位のほうから7チームを選んだのが、2番目の出場チームということで、最後に開催地枠ということで、鳥取県チームが一番点が高かったチームということで選んでおります。これで20チームを選んだというところでございます。そして、大会の演技順につきましては、抽選を行いましてそこに書いてあるとおりの順番となっております。ちなみに本県からは、地方ブロック枠で鳥取城北高校、開催地枠で境港総合技術高等学校が選出されているところでございます。

次に資料の1の1、これが、そのときの審査結果ということでございます。詳細についてはご覧くださいということで、説明までは行いません。この印刷された資料は非公開(取扱注意)ということですので、よろしくをお願いします。

続きまして、資料1の2ということでございます。そのときの審査員の皆様の公表ということでまとめたものでございます。これについても説明まではいたしません、これも非公開ということで取扱注意とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○宮本委員長

今の報告事項につきまして、こういう結果になりましたということです。結果について疑義を言ってもらっても困るので、これは報告事項なんですけど、今回、手続きとか、内容とかでご質問があれば、承りますが、よろしいですね。

4 議 題

(1) 議案第1号：第4回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画について (資料2)

○宮本委員長

それでは、次第に従って次の議題に移りましょう。議案の第1号、実施計画について、資料の2ですね。ご説明をお願いします。

○明場（実行委員会事務局長）

では、資料の2について、説明をさせていただきます。実施計画書ということでございます。前回の1回目のときにも同じような計画書を見ていただいているところなんです。その後、前回の意見を反映したところ等もございます。資料の中に「参考（資料2）」というところ、こういうペーパーが付いていると思います。よろしいでしょうか？前回の企画推進会議のほうで、皆様方からいただきました意見について、これは採用ということ整理をしております。逐一説明まではいたしません、それを踏まえて、この実施計画書のほうに反映しているところがございます。そういったところで、前回から変更のあった点を中心に説明させていただきます。まず2頁のところでございます。交流会の日時、場所ということなんです、交流会の時間ですね。9月30日18時10分からとしていたところなんです、18時からというご意見を踏まえまして18時から開始することにします。そして三番目の出場チームのところ。前回ちょっと記載していなかったんですけども、予選審査会ですけれども、予選審査会を8月2日から3日に県庁で開催したということが記載してございます。それから六番目のところですね。表彰のところでございますが、全日本ろうあ連盟賞と日本財団賞のところ、前回の会議でご意見をいただきました（3頁）。この件につきまして、参考資料2に考え方を付けております。その中で、実は昨年度第4回の2月20日に行われました第4回の企画推進会議において、たとえば、例示させていただいたような内容でご提示させていただいて、一応ご議論いただいたということで、そのときは意見がなかったものですから、こちらとしましてもご了解いただいたということで関係団体と調整に入っていたという事情がございます。そして前回のご意見の中で、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞、鳥取県聴覚障害者協会賞がいいんじゃないかというご意見をいただいたところではあるんですけども、それぞれの団体とも調整をきてということもございまして、いただいた意見につきましては今後の課題とさせていただきます。今回は当初こちらが想定していたとおりの日本ろうあ連盟賞は、基本的には特別支援学校を対象としたもの、そして日本財団賞のほうを特別支援学校ではない学校を対象としたものという整理をさせていただけたらというふうに考えてございます。というところで前回の意見を踏まえて、そういったかたちで今回はやらせていただきたいということをお願いしたいと思っております。

では4頁について、7番の出演者のところがございます。その中の総合司会ということで1名、NHK鳥取放送局の近藤泰郎アナウンサーということでご承諾をいただきましたので、近藤さんのほうをお願いしたいと考えております。今までは大木アナウンサーに総合司会を担当していただいていたんですけども、今年度は近藤泰郎アナウンサーのほうをお願いしたいというふうに考えております。その後に審査員6名を記載しておりますが前回と変更はございません。

次に資料の6頁をご覧ください。ゲストパフォーマーは変りございませんが、スペシャルサポーターということでございまして、山根千佳さんという方をスペシャルサポーターとしてお願いしようかと考えております。元々、審査員の選出過程で、ちょっとホリプロ

さんというプロダクションとやり取りをしている中で、いろんな芸能人の方とかございまして、今後のつながりということもございまして、関係を作っておくということも一つの手だなということをお願いしました。それから、あとは大会のイベントを盛り上げるという意味合いも込めまして、そういう話をしていたときに、山根千佳さんといわれる鳥取県出身のタレントの方がおられまして、NHKの「ガッテン」の準レギュラーということで、テレビに割とよく出ておられる方ですけども、この山根千佳さんをスペシャルサポーターとして、今回の大会に出演いただくということで考えたいと思っております。具体的に何をするかという辺りにつきましては、これからまたM&Mさんと詰めるところがございませけれども、インパクトのある手話教室みたいなかたちで、出演司会者と一緒にやってみるみたいなところで考えたかどうかというようなところで考えようと思います。

今までのところで、何かご質問等ございましたら。

○宮本委員長

前回宿題になっていることはこれで、その宿題返しがこの点であるということ。質問をなさった方、これでよろしいですか？

○国広委員

資料の6頁、スペシャルサポーターについてももう少し具体的なお話を聞く機会というのはあるのでしょうか。たとえば何をするかによって、そこに情報保障関係で、手話通訳がいるとかいないとか、概要が分かるのはいつごろになるか、お考えを聞きたいと思えます。

○明場（実行委員会事務局長）

はい、いただきましたご意見なんですけど、実質的なものをなるべく早く、推進会議はこの場が最後になりますので、あとは個別に各委員さんに、内容が固まり次第情報提供させていただくというかたちで進めたいと思えます。時期的にはできるだけ早くというふうに考えています。

○大杉委員

資料2参考別紙1頁のところですけども、内容については今回、とくに問題はないと思っておりますけども、言葉の使い方について、特別支援学校の隣に普通校というふう書いてありますけれども、普通校という言い方、それが正しいのかどうか、とくに教育委員会の専門の方もいらっしゃいますので、どういう言葉が適切なのか、私のほうも一般校とかそういう方をすることを確認していますが、普通という言い方が適切かどうか、今後文書の中に言葉としてどういうふう載せていくかということにも関わってきますので、教育委員会のほうでも教えていただけますでしょうか。

○寺谷委員

改めて、内部で確認します。

○大杉委員

分かりました。

○明場（実行委員会事務局長）

それでは、7頁以降を改めてご説明させていただきます。8、交流会のところでございます。これはとくに変りはございません。時間のところだけです。資料をめくっていただ

きまして、8頁のところでございます。9、本大会というところでございます。中身的には変わらないところがございますが、先程もちよっとお話をしたんですが、15時30分から16時10分、ゲストパフォーマンスのところですね。手話教室ということで、演技司会者、山根千佳さんということで書いてございますが、この辺りにつきまして、またご意見いただきましたとおり、細かいところを詰めて、なるべく早くご提示さしていただくというふうに考えております。続きまして、資料の9のところでございます。大会の観覧はとくに注記はございません。催し等のところの上から三つ目のところですね。前回の推進会議の中でも、ご意見がいただけたんですけども、高校生の実習製品等の販売ブースの展示という方向で考えてございます。内容は、高校生による実習製品等の販売というところでございます。

続きまして、10頁のところはとくに変りはございません。11頁のところは、13番、本大会審査実施要領というところがございます。これにつきましては、毎年実施要綱を作っているところですけども、これにつきまして今年度版ということで作らせていただいております。これにつきましては、基本的には毎年同じところなんですけど、変わったところを説明させていただきますと、4番のところですね。演技時間等ということで、演技時間を6分以上8分以内と変えているところを反映しています。それから4の(3)のところ、各チームの演技時間については、主催者が計測した時間とするということで今までできてたんですけども、ここに追加しまして、但書を追加しております。「演技時間の開始及び終了のタイミングは(2)に基いて主催者が判断することということで、この辺はちょっと曖昧なところをきちっとしておこうというところの配慮でございます。そして、(4)のところですけども、■の枠の中ですね。「6分経過、残り2分前」(上から2番目、緑色のところ)、今までは7分経過、残り1分のところでやっていたんですけども、そこを「6分以上」というふうにしたところがございます修正しております。

次に資料12頁をご覧ください。5の(3)のところは、その表の中の下から四つ目のところですけども、定められた演技時間の下限に達しなかった場合というのを、今回あらたに加えてございます。これを10点減点ということでございます。それと、下から2番目のところですね。そのた定められたルールに反した場合「※」というふうに書いてございます。これにつきまして、その下の欄外のところに「※」というということで、その定められたルールに反した場合ということが、下のほうにそれぞれ黒ポツで三つ程書いてございます。これ元々表の中に入っていたものを外に出して、ちょっと体裁整えたというふうなところがございます。実質的にはその辺りは変ってないところがございます。

それから、資料13頁をご覧ください。6番のところですね。優勝チームの決定の方法というところで、(2)審査得点が同点となり、順位を審査得点で決められない場合の順位についての基準を明確化したというところがございます。まず、手話の正確性・分かりやすさの審査項目の高いチームをまず上位とします。そして、もしこれが同点の場合でありましたら、審査員の多数決で上位チームを決定する。それでも決まらないときは、最終的には審査委員長が順位を決定するというかたちでルール化したというところがございます。そして、(6)のところ、鳥取県聴覚者協会賞について、理事長が決定する。そして、カッコの中ですね。「梨花賞を授与する」というところを追加して記載をしております。

10頁でございます。本大会に出場するチームの一覧を出場する順に提示してございます。午前中の部が14頁、午後の部が15頁というところがございます。中身につきましては説明いたしませんけど、こういったかたちで20チームの出場ということになっております。

最後に16頁をご覧ください。こちらのほう、とくに改正点はございません。予選参加チーム、54チームということでございまして、それを掲げているところでございます。それでは、事務局からの説明は以上です。

○宮本委員長

では、これまでの事務局側が作成した資料の説明につきまして、ご質問、ご意見がございましたら、お願いします。これから17頁以降は今後、説明がありますので、今までのざっとした流れについて、ありましたら。

○田中委員

9頁の催し等のところなんですけども、高校生の販売ブース、これは実際にどこの学校に打診というか、聞かれて決定した学校があるのかどうかという辺りがお聞きしたいのと、12頁の一番下のほうなんですけども、舞台上の定められたエリア以外で、演技を続けた場合に減点、というところがあるんですけど、この定められたエリアというのは、高校生に分かるように、もう提示がしてあるのか、定められたエリアというのはどこからどこの範囲なのかという辺りを教えてください。

○事務局

まず一つ、高校生の販売ブースということで、県内のすべての学校、県立学校・私立学校すべてにご案内させていただきました。回答期限は今月末になっております。今、山根校長先生（委員）がご尽力いただいております境港総合技術高等学校さんが、実習製品の販売をしたいということで、手を挙げていただきまして、こちらのほうはぜひお願いしたいと思っております。次に定められたエリアですが、開催要綱のほうに、横10m、縦5mとエリア区域を書いております。当日そこにラインを入れます。そのエリアの中で演技をしていただくということで、そのエリアを著しく越えて演技するというようなことがあれば、それは問題だということで減点を定めております。

○廣田委員

今回ちょっとどの部分になるのか分かりませんが、ちょっとお願いしたいことがあります。全日本ろうあ連盟として、筑波技術大学の杉先生に協力をいただきまして、こちらのマークになりますが、（情報保障ができることを示す）マークを作りました。情報保障ができるということで、この大会でも使う意義があると思っております。たとえば、タクシー業界さんはプレートに貼っております。大会でもこの情報保障のマーク「筆談で対応できますとか、手話で対応できます。」そういったマークを着けるということをお願いしたいなあと思います。たとえば、このマークを見て会場近くのお店でも筆談対応できますよとかいうことも分かりますし、地域の中でそういうマークを広めていただければ、大会の盛り上げの一躍にもなるのではないかと思います。いかがでしょうか、お願いということで。細かいことについては、鳥取県聴覚障害者協会さんに相談していただいて、具体的に進められてはと思いますが、いかがでしょうか。

○明場（実行委員会事務局長）

おっしゃるとおり、鳥取県聴覚障害者協会さんのほうと、また連携を図りながら、またm&mさんのほうと連携を取りながら進めて参りたいと思っております。

○戸羽委員

明場さん、ちょっと確認をさせてください。通訳を介してではありますが、聴覚者障害者協会と言っておられますが、聴覚者障害者協会ではなくて、私どもの正式名称は聴覚障害者協会でございますので、よろしく願いいたします。聴覚者障がい者とおっしゃっておられまね、ずっと。

○大杉委員

大杉です。では、聴覚障害者協会の名前が入っているユニフォームを差し上げてはどうでしょうか（笑）

○明場（実行委員会事務局長）

失礼しました。以後気をつけます。

○国広委員

11頁、7分30秒経過で、残り30秒前で黄色、8分経過をしたら赤ということですが、「もう8分ですよ」というきちっとした時間というのは、どの時点で分かるのでしょうか。たとえば、赤になって赤点滅で超過をした状態というのを表示するのか、これだと8分というきちっとした時間が分かりにくいので、どのように分かるように表示されるのかお聞きしたいと思います。もう一つ、同じページで、4の（6）です。音声通訳を行うということで、この音声通訳というのは誰でもいいのでしょうか。たとえば、教師が主体とか、とくに制限というのは考えていらっしゃるのでしょうか。

○事務局

カラー表示の点ですね。8分は赤に変わったら8分ということで、赤に変わったら減点ということで思っただけであればいいと思います。8分までなので、8分になったら赤に変えます。そしたら減点。なので、ある意味7分30秒からリミットが係ると考えてもらったほうがいいのかと思います。残り30秒ですよとで、8分超えたら赤に変わると。

○国広委員

8分ちょうどで終わったら大丈夫ということですね。8分以内という言葉が厳密に取れば、8分01になったら、もうだめだと。その辺のところの細かいルールというものをつくっていらっしゃるのかをお聞きしたいです。

○事務局

細かい部分については、主催者判断というふうに記載させていただいたので、8.0何秒とか、そういった議論を今するつもりはないんですけども、「ありがとうございました」というところで、終りの合図が続けばそれで終わりですし、8分超過ですので、厳密にいうと8.00で、8.01とか理論的にはあって、減点になります。ただもう終わりであれば、そこはどこまで厳密にやるのがいいのかという点もあるので、そこは主催者がきちんと判断するというところで、併せて（実施要領に）表記させていただきました。もう一つですね。音声通訳の部分ですね。4の（6）障がい等により演技を行う際に補助が必要な場合に舞台下または袖から補助動作を行うことは認めるいわゆる、学校引率者または演技補助を行う生徒、いずれかを考えておきまして、チームメンバーの中で演者以外の人が行っていただく（引率者又は演者ではない生徒）というような整理としています。

○森原委員

国広さんと同じく11頁の演技時間を示すライトなんですけれども、第3回の大会が終わった後のこの会議で、緑と黄色がちょっと見にくかったという意見をいただいたんですけども、なにか改善されましたでしょうか。ちょっと緑が黄緑っぽかったので、黄色とちょっと分かりにくいのを感じられたんですけども。

○明場（実行委員会事務局長）

その部分については、今後、対応を検討したいと思います。

○宮本委員長

では、今回も企画運営をしていただいている、M&Mさんのほうから、17頁以降の説明をお願いします。

○本山（M&M）

では、17頁以降から、重複するところもありますけれども、説明させていただきます。18頁目をご覧ください。大きな部分だけご説明させていただきます。今回本部の中に情報コーディネイトチームというものを新たに設けさせていただきました。目的としては、情報保障の部分というのをもっと中心にしていこうということで、情報保障コーディネイトチームというものを入れています。具体的な中での図式を入れていますけれども、基本的に運営のスタッフとしては、進行班、審査委員班、出演者班、会場班、総合案内班等に分かれるんですけども、それぞれの班ごとに何か問題があったり、トラブルがあった場合、その情報というのはこの本部の情報保障コーディネイトチームのほうに上げられまして、そこで問題を解決して各班のほうに下ろしていくというのが、大きな情報保障コーディネイトチームの役割になって参ります。

続きまして20頁をご覧ください。ボランティア計画についてでございます。今ご覧の36名という役割を各高校のほうに打診をしております。8月31日を締切というかたちで、今回回答を待っている状態です。

続きまして21頁目、交流会です。こちらはちょっと実施計画書の7頁目ですね。スペースの関係で重複しておりますけれども、7頁目に進行表というかたちで、式次第のほうを7頁目に記載をしております。過去の大会から、交流の時間をもっと設けてほしいというところが要望としてございましたので、今回交流の時間を多めに取っております。続きまして22頁目、23頁目、会場図のほうをご覧ください。こちら大きな変更点はないんですけども、23頁目ですね。まず、ウェルカムステージを8時半から9時、12時から12時45分というかたちで、2回ウェルカムステージというかたちで来場者のおもてなしをしようと考えております。こちらは今回鳥取市で開催ということもございまして、鳥取市の郷土芸能「しゃんしゃん祭」を行う予定にしております。先般お盆にしゃんしゃん祭が行われまして、グランプリの百花繚乱というチームに出演をさせていただいて、郷土芸能ステージを30分程行うようにしております。続きまして、会場イベントの具体的なところになりますけれども、25頁目をご覧ください。9月30日と10月1日の2日間の両日、手話カフェと鳥取ろう学校の写真展を開催する計画を進めております。続きまして26頁目、座席計画についてご説明をさせていただきます。2階席を出場チームの座席というかたちにさせていただきまして、基本的には1階席が900席余りが一般席が入るスペースというかたちで今計画をしております。ただハートフルと合わせまして、約1150席余りが入場可能の席というかたちでございまして、一応3階席は当面クローズというかたちにはしておりますけれども、もし来場者の数に応じて3階席も解放にして最大で1

500人ぐらい入るかたちの計画にしております。続きまして最後に27頁目と28頁目、こちらはモニターの運用計画を掲載しております。28頁目に式典、インタビュー時、パフォーマンス時というかたちで、モニターに出す部分を提示させていただいています。先程情報保障コーディネーターというチームを作ると言いましたけれども、この映像を出す場所のほうにも情報保障コーディネーターの方に1名付いていただいて、その方と一緒に必要な情報を随時出していくという計画にしております。基本的なパターンとしては左側に舞台映像、右側に手話通訳、下に要約筆記というのが基本画面なんですけれども、これは場面場面に応じて必要な情報を随時出していこうというかたちに考えております。小ホールのサテライトについても説明をさせていただきます。基本的にこちらは、ライブ映像と手話通訳と下の要約筆記というかたちのものが出てくるんですけれども、サテライト会場のほうには手話通訳付きません。なぜならモニター上に手話通訳が既に入っている状態ですので基本的には付きません。ただ、有事のときなどに対応するために、左右に手話通訳スタッフを配置しております。あと一点、次のページが手話通訳者の立ち位置とか、可成り細かい話になってくるんですけれども、こちらの書類には書いていないんですけれども、大きな変更点だけちょっとご説明をさせていただきます。30・31頁目をご覧ください。ちょっと口頭で申しわけないなんですけれども、ステージの上でろう者の方がいらっしゃるというシーンがあります。とくに表彰式とかというかたちで、昨年もお指摘があったんですけれども、昨年ろう者の方がたくさん並んでおられて、前側で手話通訳はしているんですけれども手話通訳の様子が見えないというご指摘がございました。今回表彰式に関しては、手話通訳者をステージの上に60cm程の台がくるので、その上に立っていただいて手話通訳をしていただくというような予定にしております。それによって後側のろう者の人たちにも手話通訳が見えるというようなかたちにしていきたいと思っております。もう一点ですが、こちらのほうも気にかかっている、今回はテストケースなんですけれども、筑波大学の協力によりまして、タブレットを使って要約筆記の画面を表示するというシステムを今作っております。それを当日、交流会の会場と本大会の両日、タブレットを10台ご用意しまして、来場者の方にお配りして見ていただこうというようにかたちの計画もしております。ざっとした説明でしたが、細かいところは、ようやく出場校が決まったところですので、これから具体的に内容のほうは詰めていくこととなりますので、とりあえずは以上です。

○宮本委員長

ただいまの説明で、ご質問がございましたら。

○国広委員

17頁の応援サポーターというのは、あくまでもウェブ映像のみでしょうか。この方々はどのような役割で、どのような形で出られるのかということをお聞きしたいと思います。

○福井 (M&M)

17頁の応援サポーターについてなんですけれども、先程この会が始まる前に流させておいてもらいましたウェブでの広報用の映像ということで、基本的にはウェブの映像というものと、本大会のアナウンスなど他と書いてあるんですが、これについてはスペシャルサポーター山根さんもいらっしゃるの、ちょっとその役割はあらためて事務局のほうと協議したいと考えております。

○田中委員

先程、タブレットについての説明があったんですけども、当日も参加校に使ってもらおうというお話でしたけれども、当日の使い方のイメージをちょっと教えてください。

○本山（M&M）

出場校については、今ヒアリングを行っているところでございます。出場校に必要な高校があれば貸し出しをするかたちで、あくまで来場者用ということで想定をしております。総合案内のところで、必要な方がいらっしゃいましたら配りたいなというかたちで考えております。

○田中委員

来場者に出すとなると、ちゃんと返ってくるのかどうかというのも心配だと思いますし、その辺はどうなんでしょうか。

○本山（M&M）

これは、音声ガイドというかたちでFMラジオの貸し出しもでございます。それと同じように考えておきまして、名前をご記入いただいて、貸し出しをすることを想定しております。

○戸羽委員

確認をしたいことがあります。26頁、1階は一般席、2階は出場チーム、3階は一般席ということで、3階は、最初はクローズしているという話でした1階が一杯になった状況を見て、3階をオープンするということだと思うんですけども、サテライト会場もございます。1階が満席の場合、次はサテライト会場のご案内ではなくて、まずは本会場の3階のご案内をするという考え方でよろしかったでしょうか。ただ、3階のクローズの理由としては、スクリーンのほうが見えにくいということで、お客様にはちょっとということで最初はクローズというふうに思っていますけれども、考えを聞かせてください。

○本山（M&M）

ご指摘いただいたとおりです。委員のほうにも見ていただきますが、3階席からは角度がございまして、モニターのスクリーンが見えないわけじゃないけど、見にくいという問題もございます。今考えているのは、1階席が満席になれば3階をオープンしようと思っておりますので、ではサテライトの位置づけはなんなのかということになると思っておりますけれども、中には会場には入らずに休憩をしたいという方もたくさんいらっしゃると思いますので、サテライト会場は自由に使っていただくスペースというかたちで位置づけております。

○森原委員

20頁の高校生ボランティアについてですけども、締め切りまでまだ10日あるんですけども、現在回答待っている状況ですとお話があったんですけども、現時点で申込みのほうはあったかどうか、もし分かれば教えてください。

○事務局

教育委員会さんと、私立学校の担当課さんのほうにもご協力をお願いしていて、期限までに申込みいただけるように、随時、高校にも案内と呼びかけを行っていきたいなと思っています。今、夏休みの真っ最中で、これから高校の方も具体的に動くのかなあというふうに思っていて、今の段階で急かすのはどうか（高校側の心証を損なうおそれ）とも思っているのです、今後の状況を見ながらと思っています。

○田中委員

高校生ボランティアに関係するんですけども、もしも高校生ボランティアが集まらなかった場合には、手話スタッフの数が増えるんでしょうか。

○本山（M&M）

それはございません。高校生ボランティアというのは、あくまで目的としては、学校との交流を目的にしております、このスタッフに関わる必要というところではなくて、お手伝いしていただくというところがございますので。

○宮本委員長

これで、ひととおり終わりましたが、他になにかございますか。

○森原委員

議題とは直接関係はないんですが、新聞にも手話パフォーマンスのキャラクターが載ったんですが、I love you の指が6本になっているんですけども、これはなにか間違いなのか、あえてこうしてあるのか、ちょっと不気味だなあと思ったんですけど。

○戸羽委員

はい。監修をしたのは私です。イラストがありますか？通常でしたら人間は指が5本の方がほぼだと思えますけれど、監修したら指が6本ありました。申し訳ございません。

○小澤（障がい福祉課長）

ご指摘いただきまして、このデザイン自体を作らせていただいたのは県のほうでございますので、監修のほうは鳥取県聴覚障害者協会さんのほうでしていただきましたけれども、責任のほうは県のほうにあります。申し訳ございません。もし訂正が間に合えば訂正したいと思えますので、ご指摘いただきありがとうございます。

○戸羽委員

大変申し訳ありませんでした。監修のミスもあります。

○国広委員

前回にも言ったような気がするのですが、ボランティア説明会と合わせて、手話スタッフの方々の説明会も計画をお願いしたいという要望です。それと、もう一つの要望は、情報保障に係る手話通訳者、手話スタッフも関係するかもしれませんが、情報保障関係の立ち位置など、実際現場でやってみないと分からない部分というのがあると思うので、リハーサルをお願いしたいと思います。

○宮本委員長

M&Mさん。

○本山（M&M）

はい、説明会のほうに関しては、ここに記載はしていないんですけども、また9月の中旬ごろに毎年行っておりますように、計画はしております。あと、リハーサルの手順ですよ。ちょっと一度検討させていただいてもよろしいでしょうか。35頁に全体のリハーサル計画というものをまとめております。ちょっとこれも各学校に打診をしているところで最終的ではないんですけども、リハーサルの計画をしております。見ていただいたら分かると思うんですけども、6時から交流会があるというかたちに考えていきますと、リハーサルをする時間というものが取れてないというのが現実でございます。ただ、ご指摘いただいたとおり、リハーサルがあったほうが間違いなくいいと思っていますので、それも含めて調整をさせていただければなというかたちには思っています。

○田中委員

20頁の手話スタッフについてです。ボランティア説明会なんですけども、この会議が終わったら早急に、できるだけ早く募集をかけたいなあと思っているんですけども、できればそのときに、ボランティア説明会の日程が入ればありがたいなあと思っています。せめて8月中というか今週中というかぐらいには決定していただけるとありがたいのですが。

○福井（M&M）

できればこの会が終わった後、少しお時間いただきまして、国広委員も含めて日程のほう決定していきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○宮本委員長

その他、ご意見、よろしいですか。それでは、この実施計画についてはひとまず終りにします。今日いただいて応えられなかった案件もございまして、それは適宜整理して対応したいと思います。それでは、「その他」の案件についてお願ひします。

5 その他

（1）大会へのご出席について

○明場（実行委員会事務局長）

お手元に「第4回手話パフォーマンス甲子園への御参加について（依頼）」という依頼文章を委員の皆様に向けての通知文章を付けてございます。これには、大会がスムーズに運営できますようご協力くださいということと、交流会にもご参加いただきたい、ということが書いてございます。昨年の推進会議で、委員さんの当日における役割という話がございまして、それぞれの委員さんにそれぞれの役割をしていただいたという経緯もございまして、今年度につきましてもそういった向きで、また個別にお話しをさせていただくことになろうかとは思いますが、大会を万全に開催できるようにという趣旨でございますのでご理解をよろしくお願ひします。もし本日、回答のほうがいただける委員さんがございましたら、表のほうにご記入いただいて出していただければと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

（2）今後の日程について（資料3）

○明場（実行委員会事務局長）

引き続きまして、資料3をご覧ください。今後の日程を記載してございます。今日が8月21日で、推進会議の第2回目ということでございました。これを受けまして、細部を

これから詰めて参りまして、9月30日の交流会、10月1日の本大会に向けて進めていきたいというふうに考えております。3回目の推進会議につきましては11月の中旬に開催結果の報告だとか、その辺りを中心に話をさせていただくこととなりますし、年があらたまりまして2月になりましたら、4回目ということで、更に来年度の話ということになると考えております。こういうかたちで進めていきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

(3) その他

○宮本委員長

それでは、事務局のほうでお話ししたいことはこれで全部ですね。それからM&Mさんのほうもいいですか。それでは、全体をとおして、なにかお気づきの点とか、ちょっといい忘れたとかいうようなことがあれば、お願ひします。山根先生、三王寺先生よろしいですか。じゃあ、とくにご意見なければ、これで閉じさせていただきます。当日まで、また打ち合わせさせていただくことなどがあります。いい大会になるようにしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

6 閉 会